



ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
 URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org

会長：大塚 博巳 副会長：池ノ谷 敏正 幹事：森下 敏顯 副幹事：鈴木 舜光

第2012回

- ソング 我が藤枝ロータリー
- ソング リーダー 菅原 慎司君



【彼岸花】

写真提供：鈴木舜光君

会 長 報 告

大塚 博巳君

白山RCの太田
会長より、先週
(9/11)の例会訪問
について、お礼の電
話がありました。



島田 RC の松井
会長、河村幹事が

7/31 例会に事業 PR に来ました。その講演会が 9
月 16 日島田市民会館で開催されました。講師は
脳科学者 茂木健一郎氏、タイトルは「脳科学か
ら見る防災」でありました。

当日はあいにくの台風一過(18号)の天候では
ありましたが、会場は満席に近い入場者でした。
当クラブからも大勢参加して戴きましたので松
井会長からもお礼の言葉がありました。

茂木講師：脳科学から防災を考えると「人生と地
震は一緒」である。

人は生まれれば必ず死ぬ。しかし何時?か、誰も
わからない。地震も発生すると思うが、何時?か、
誰もわからない。

それらを恐れて「不安」でいると病気になってし
まう。

むしろ今年の流行語“今でしょ!”のフレーズと
同様、今日を楽しむこと、楽観的であること、ま
た子供時代のポジティブなワクワク感を持つこと
が「脳の健康状態を保ち、脳を働かせる基本」で
ある。

小さな子供は、無邪気に、無茶苦茶なチャレンジ
精神を発揮する。いわゆる怖さ知らずに遊びまわ
る。それは、いざこまれば親が助けてくれるとい
う安心感であり、母親という強い母子間の人間関
係(安全基地)で結ばれているからである。また

“猿の毛繕い“は信頼関係(安全基地)の証であ
り、その仲間で助け合って群れを形成している。
人間社会でも、日常の生活において、雑談(猿の
毛繕いと同じ)から始まり、助け合い・支えあ
う人間関係を築くことが『コミュニケーション「安
全基地」』につながる。

防災は「全く見えない不確実」と向き合うこと
になる。したがってうまく対処するため、①た
くさんの「人間の絆とコミュニケーション(安全
基地)」を日頃より大切にすること②ユーモアと
やわらかい気づきを発揮できる平常心で臨むこ
とが、防災の心構えである。と締めくくりました。
テレビで見る通りユニークな人柄を感じました。

本日の卓話は、ロータリー財団国際親善奨学生
の谷口ジョイさんの帰国報告です。よろしく願
いいたします。

以上、会長報告といたします。

幹 事 報 告

森下 敏顯君

- 藤枝市柔道連盟より
第51回藤枝市柔道祭・第2回柔道選手権大
会のお礼と終了報告書が届いております。
- 2620地区より
榛南RCホームページ立ち上げのお知らせ
が届いております。
- 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より
ハイライトよねやま162号が届いており
ます。

出 席 報 告

河井 宏文君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
28/43 65.12%	32/43 74.42%

(1)欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）
○石垣君 ○大塚高君 ○小林君 ○島村君
○鈴木邦君 ○松田君 ○間野君 ○村松君
○山田君 江崎晴君 大杉君 落合君 鈴木透君
玉木君 仲田晃君

(2)メイクアップ者
河井 宏文君（榛南） 間野 日出雄君（静岡北）

■ ビジター

鈴木 民雄君（島田）

■ スマイルBOX 河井 宏文君

- 久しぶりにメーキャップをさせていただきました。先日の茂木健一郎の講演会にご参加ありがとうございました。お陰様で盛会に終了できました。 島田RC 鈴木 民雄君
- やっとゴルフでハンデ10のAクラスになりました。次はシングルめざして頑張るゾー！ 河井 宏文君
- やっとハンデ20台になりました。ちなみに26です。次はBクラスめざしてガンバルゾー。 菅原 慎司君

スマイル累計金額 58,000円

■ 外部卓話

ロータリー
国際親善奨学生
（20112-13年度）
谷口 ジョイ様



昨年10月から今年7月まで、メルボルン大学において、第二言語としての英語教授法を学ぶ機会をいただきました。本日はその帰国報告をさせていただきますたく存じます。

私は、現実世界における言語に関わる諸問題を特定し、その解明を目指す「応用言語学」という分野を専攻しています。中でも、人が二言語、時に複数言語をどのように獲得し、運用するかについて考える「バイリンガリズム」という研究分野に興味があり、留学先でも複数言語による読み書き能力（バイリテラシー）の発達に焦点を当てた研究を行っていました。

メルボルンでは、ロータリーの方々と協力し、

親善活動に従事させていただきました。東日本大震災の被災者支援や、複数の言語・文化背景を持つ児童を対象とした国際文庫活動に携わることができました。主に、日本語の絵本や物語を通して、現地の親子に日本語、日本文化に親しんでもらうという活動を行いました。自身の経験を生かした社会奉仕活動を、その地域に合う形で展開していけたのではないかと思います。こうした活動は、細くても確かな一本の線として、私たちの未来に向けてつなげていけるものだと思っています。

情報化社会に生きていると、世界が箱庭のように感じられることがあります。パソコンのスクリーン越しに誰とでも意思疎通が図れ、キーボードで検索語を打ち込めば、たいていの情報は得られます。しかし、その地に暮らしてみても初めて分かることがいかに多いか、今回の留学で再認識致しました。環境保護や労働に対する市民の意識の違いを表すいくつかの事例を、卓話においてクイズ形式でご紹介させていただきました。

海外に学びの場を得たことは、研究に新たな視点をもたらしただけでなく、多くの方々と国際親善を図る貴重な経験となりました。ロータリーの奨学金がなければ、経済的な問題から、留学は困難でありました。皆様からの経済的援助を受けることで、学術に関連した出費を賄い、親善奨学生としての活動を円滑に行うことができました。今後は、研究の成果を生かし、多言語・多文化環境にある子どもたちを取り巻く社会の改善を目指すことで、世界理解、親善、平和の推進といったロータリー財団のビジョンに寄与していきたいと願っています。留学中、皆様からいただいた温かいエールにどれだけ励まされたことでしょうか。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



（担当／池谷君）